

「普通の在り処」

ゆめおりかなた

普通。

何をもつて『普通』と定義するかは非常に難しい単語である。

しかし、少なくともこの2人の少女達の運命は、『普通』とは明確に区別されるべきものだろう。

公園のベンチに並んで座る2人の少女。

同じ制服……白を基調とした清潔感あふれるデザインは、少女達の清楚な愛らしさをより一層輝かせていた。

茶色の髪を小さく2つに結んでいるのが、なのは、豪華な金髪を2つにまとめているのが、フェイト。

2人の少女は、いわゆる『普通』の人が一生かかっても経験し得ない運命の濁流を、12歳の小さな身体でしっかりと受け止めてきた。

失ったものは多い。

でも、それを不幸だとは思わない。

余りにも過酷な運命と引き換えに、余りにも大事な運命を手に入れた。

今ある幸せは……もはや失ったものと引き換えだとしても手放す事ができない。

そんな事を、2人同時に考えたのだろうか？

俯いていた顔が同時に上がって、目が合って……

嬉しそうに頬を染めて、2人はまた俯いた。

こんな『普通』の幸せが、ずっと続くと思っただけ……